

WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」

月間運用実績レポート（2026年4月）

■ パフォーマンス

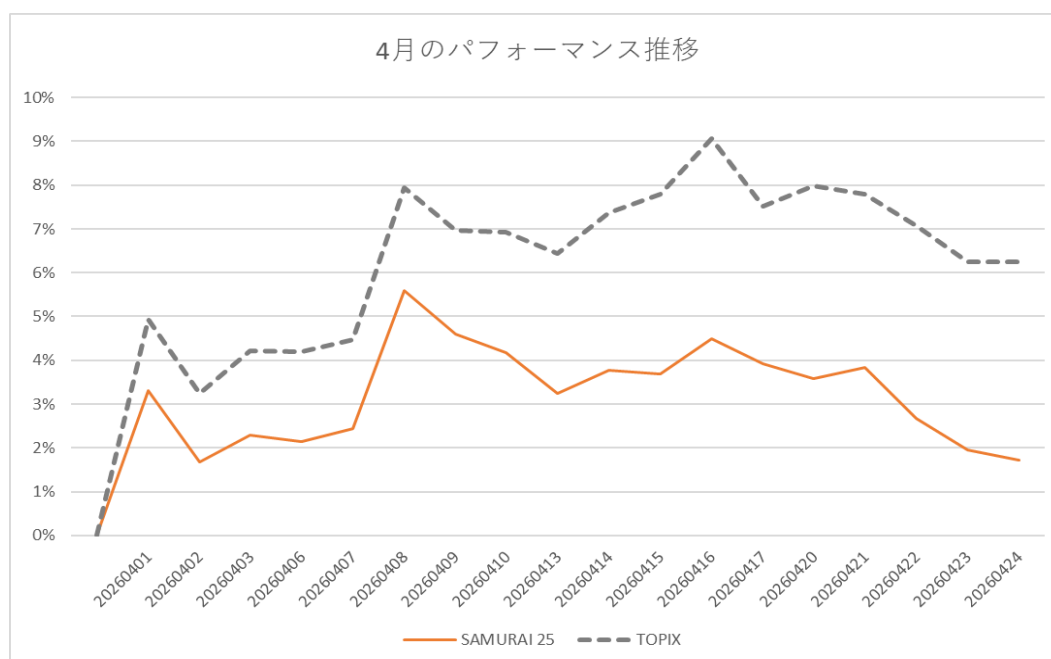
➤ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	+2.78%
------------	--------

➤ 各指標の月間騰落率

TOPIX	+6.56%	(配当込み)	+6.57%
日経225	+16.10%		
NYダウ	+7.14%		
S&P500	+10.42%		
NASDAQ	+15.29%		

➤ 4月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	2.78%	2.18%	19.42%	55.49%	214.68%
TOPIX	6.57%	5.56%	13.17%	43.01%	142.40%
超過収益	-3.78%	-3.38%	6.25%	12.47%	72.29%

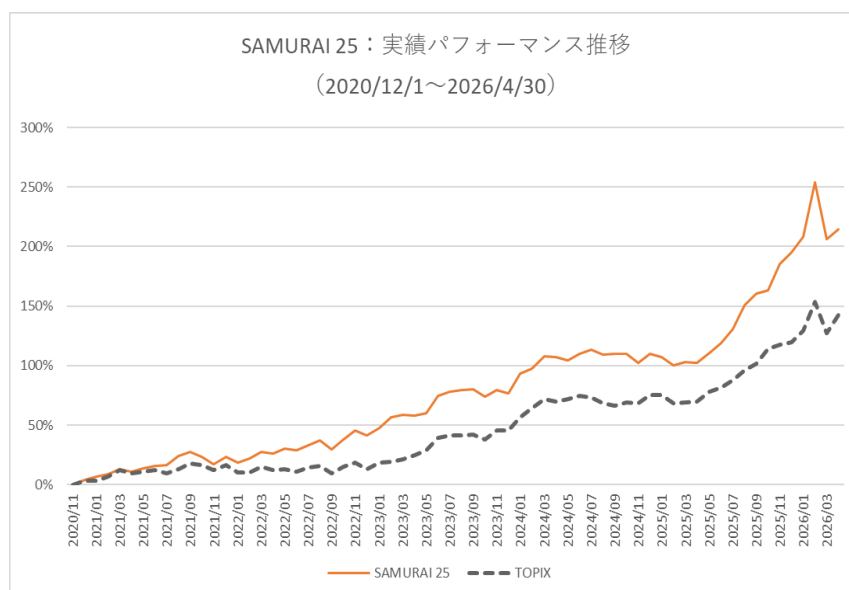
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

SAMURAI 25の4月の運用成績は+2.78 %（配当込み）、TOPIX +6.57 %、対ベンチマーク比で▲3.78%となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

➤ **設定来のパフォーマンス推移グラフ**

SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2026年4月末までの運用実績です。



※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
年間リターン(2026年)	6.61%	10.44%
累積リターン(2020/12-2026/4)	214.68%	142.40%

リターン（年率換算）	23.57%	17.76%
リスク（年率換算）	14.53%	12.39%
下方リスク(年率換算)	7.68%	6.85%
シャープ・レシオ	1.62	1.43
ソルティノ・レシオ	3.07	2.59

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

■4月の市況概況

➤ 日本市場

4月の日本市場は、中東情勢の悪化に伴う原油高や、日米金利差を背景とした1ドル160円台に迫る急激な円安進行が重荷となり、ボラティリティの高い展開となりましたが、米国市場のハイテク株高やAI向け半導体需要の拡大を背景に、海外投資家の旺盛な資金流入もあり、日経平均は歴史的な株高局面を迎えました。月末には日銀による巨額の為替介入により、急激な円高となりました。

・第1週（4月1日～4月3日）／+4.03% TOPIX : +4.21%

中東情勢への期待と失望が交錯する乱高下

イランでの戦闘早期終結への期待から前日比2675円高と歴史的な急騰を見せましたが、その後の米大統領の演説で事態收拾の具体的な道筋が示されなかったことで失望売りが広がり、1276円安と急反落しました。また、原油価格の高騰や円安進行が意識され、相場のボラティリティが急激に高まる展開となりました。

・第2週（4月6日～4月10日）／日経225 : +7.15% TOPIX : +2.60%

停戦合意を好感し半導体関連主導で急反発

米国とイランの停戦合意を受け、日経平均は前日比2878円高と過去3番目の上げ幅を記録し大幅に反発しました。過度な警戒感が和らぎ、アドバンテストや東京エレクトロンなどのAI・半導体関連銘柄に買いが集中しました。一方で、円安や原油高止まりを背景に、インフレ再燃と日銀の早期利上げ観測が根強く意識されました。

・第3週（4月13日～4月17日）／日経225 : +2.73 % TOPIX : +0.56 %

AI関連銘柄への資金集中で最高値更新

日経平均は前日比1384円高の5万9518円をつけ、約1カ月半ぶりに史上最高値を更新しました。台湾TSMCの好決算を受けたAI向け半導体需要の強さが投資家心理を大きく改善させ、日本の半導体関連銘柄にもそれが波及しました。一方で、原油高によるインフレ懸念から国内の10年国債利回りが約29年ぶりの2.490%まで急上昇し、金利高止まりへの警戒感も強まりました。

・第4週（4月20日～4月24日）／日経225 : +2.12% TOPIX : ▲1.18%

一時初の6万円突破も利益確定売りに押される

日経平均は取引時間中に史上初の6万円台を突破したものの、買い一巡後は利益確定売りに押され、前日比445円安で引けました。AI半導体関連が相場を牽引する一方で、プライム市場では値下がり銘柄が多く、NT倍率が過去最高水準に達するなど、資金流入の一部銘柄への偏りといびつな相場構造が指摘されました。

・第5週（4月27日～4月30日）／日経225 : ▲0.72% TOPIX : +0.29%

終値6万円台到達と日銀会合後の波乱

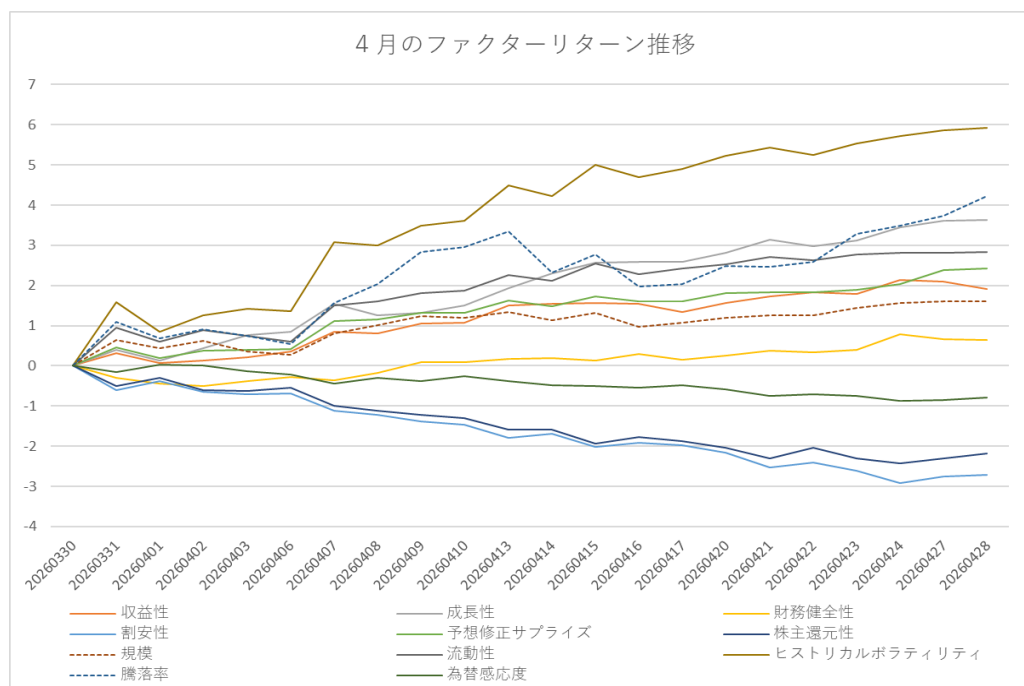
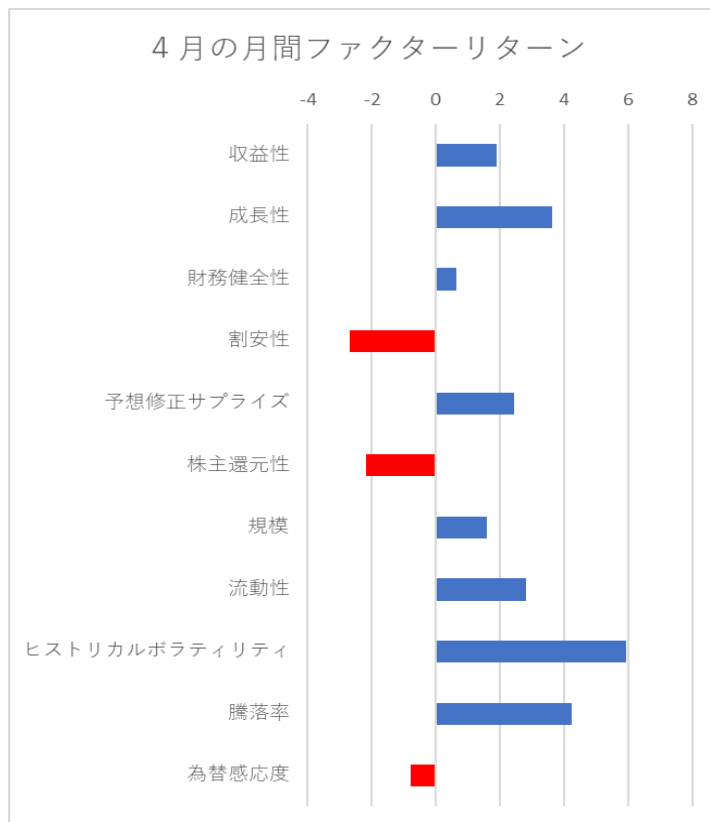
日経平均は終値ベースで初の6万円台となる6万537円を記録しました。しかし、日銀が金融政策決定会合で政策金利の据え置きを決定した直後、半導体株安も重なり6万円を割り込みました。さらに、財務省の強い牽制を契機に政府・日銀による為替介入が実施され、1ドル160円台から155円台へ急伸するなど、金融・為替政策に翻弄される月末となりました。

月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

4月は、上昇傾向が続くハイリスクの好業績グロス株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、ヒストリカルボラティリティファクター・騰落率ファクター・成長性ファクター・予想修正サプライズファクター・収益性ファクターがプラスとなり、米国とイランの停戦合意により戦争終結に近いとの楽観的見方が広がり、さらに、米国市場に呼応する形でAI・半導体関連銘柄に買いが集中するなか、上昇に勢いがあるハイリスクの好業績グロス株が堅調となったことが見て取れます。



➤ ファクター寄与度

そのような市況環境のなか、**SAMURAI 25**は、市場平均であるTOPIXをアンダーパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアンダーパフォームした要因は、

SAMURAI 25が持つバリュー要素の「割安・高配当」特性が大きくマイナスに寄与、さらに、市場平均よりも「アンダーウエートしているヒストリカルボラティリティファクター（＝低リスク特性）」もマイナスに大きく寄与し、グロース要素の「高収益・高成長」特性だけではこれらマイナスを賄えなかったためです。

4月は、米国市場に呼応する形となり、一部のAI・半導体関連銘柄へ大量の資金が集中する一方で、原油高等のインフレによる景気下振れからの業績悪化が懸念される銘柄群との二極化が進みました。

この結果、NT倍率（日経平均／TOPIX）は過去最高水準に達し、「日経平均優位・TOPIX劣位」の状況が続きましたが、一部の指数寄与度の高い値高株の影響が強く、日経平均の上昇は日本市場の実態を表していないとの指摘も聞かれました。

AI関連銘柄の成長性の高さは誰もが否定するものではありませんが、半導体関連銘柄だけが資材高騰やサプライチェーン寸断の影響を受けずに成長し続けるとは考え難く、過熱感も指摘されるなか、いずれ修正が訪れるのではないのでしょうか。

一部の値高株のみならず、日本企業への期待は依然として高い状況であり、十分にリスクが織り込まれれば、これまでと同様、再びこれら本質的価値のある銘柄群へ資金が向かうのではないのでしょうか。

➤ 個別銘柄寄与度

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度
1	7278	株式会社エクセディ	4.0%	+0.40%
自動車部品メーカー。クラッチやトルクコンバータなどの駆動系部品で世界トップクラスのシェアを誇ります。手動変速機用部品（MT）と自動変速機用部品（AT）の両輪で展開。2026年3月期決算では、AT事業の受注減少があったものの、生産性向上により営業利益・純利益ともに増益を達成しました。次期も増益と増配を見込んでおり、ハイブリッド車（HEV）向け部品の受注や、電動2輪ユニットなどの新製品開発による電動化対応も進展しています。				
2	8154	加賀電子株式会社	2.7%	+0.36%
電子部品・機器の商社。独立系として国内最大手級です。部品の販売だけでなく、開発・設計、製造受託（EMS）まで幅広く手掛ける「電子の総合商社」です。多角的な顧客基盤を武器に、半導体市場の回復を捉えています。2026年3月期の業績も堅調に推移すると見られ、成長分野（車載、産業機器）への注力が奏功しています。				
3	1961	三機工業株式会社	4.8%	+0.36%
三井グループの総合設備工事会社。空調、電気、給排水などの建築設備から、水処理・廃棄物処理、物流システムまで幅広く手掛けています。旺盛な再開発需要や資材価格高騰への対応が進み、2026年3月期決算は21%超の経常増益が予想されており、受注高・受注残ともに高水準を維持しています。				
4	4028	石原産業株式会社	4.0%	+0.36%
酸化チタン（顔料）と農薬の二大柱。国内唯一の「酸化チタン・農薬」を主力とする化学メーカーで、特に除草剤などの農業化学品がグローバルで強みを持っています。酸化チタンの構造改革が一段落し、農薬部門が収益の柱として成長。2026年3月期以降は本格的な利益成長局面に入ると期待されています。				
5	6804	ホシデン株式会社	3.6%	+0.32%
コネクタ、スイッチ、音響部品などを手掛ける電子部品メーカー。特にゲーム機（任天堂向けなど）やモバイル端末向け部品に強みがあります。				

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

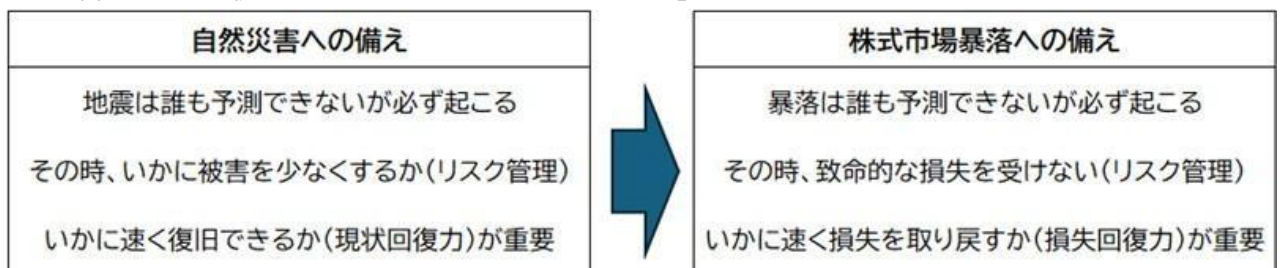
特色 3：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX ±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 5月11日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Jトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(1)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会